



山形はフルーツ王国
 湯泉王国…やがて そば王国へ
 未来は……
 環境王国、人材王国
 ……?



山形南高(山形市南高)
 東京同窓会報



第4号
 発行人 千代田区平河町2-6-3
 山形県東京事務所内
 山南東京同窓会事務局
 TEL. 03-5212-9026
 齋藤常男
 編集者 鈴木 隆



写真上 雄姿の千歳山、男は南高！…

写真中 — 名だたる果物 —
 尾花沢の西瓜、朝日のりんご
 庄内メロン、名産のラ・フランス
 南陽ぶどう、日本一のサクランボ
 庄内上ノ山の柿、桃、すもも
 あけび、栗、刈屋ナシ

写真左
 プロ野球横浜ベイスターズの
 加藤投手を応援した山南東京
 二九会の有志

後列左から4人目が加藤武治選手

平成18年度 恒例の総会・懇親会

平成18年10月13日
会場 ゆうぼうと



総会に出席して

高橋 英也 (南9卒)



山南東京同窓会には、平成14年から毎年参加している。会場ではなつかしい人との再会を喜び、皆んなで大声で歌う「南高校歌」と「空はコバルト」で我が青春時代を甦らせてくれる楽しい1日である。これからも同級生を積極的にさそい気力と体力を整えて継続して参加したいと思っている。

(気軽に集って、飲んで、ダベって、山形弁で話す。)
これが総会を盛り上げるコツです。

東京支部

会長あいさつ

山形本部



東京同窓会会長
齋藤 常男

山形の南高同窓会が精力的に活動を行い、母校の発展に多大な寄与をしております。

会員の結束が固く、「南高団結力」と活動実績が高く評価されております。

南高東京同窓会も、山形同窓会を目標に役員一同、創意工夫で活動力の向上と結束の強化に努力しております。私達東京同窓会の最大の拠り所は、多くの会員の方々から、「東京同窓会の灯を消さないでくれ」という声が寄せられている事であり、私達は、夢と希望をもって上京し、幾多の苦勞と挫折を経験しながら必死に生き抜いてきました。生きる力と人間形成の基盤を与えてくれたのは、南高三年間の生活ではなかったでしょうか。私達の原点は、ここに在ると思ひます。

同窓会は、同じ校舎、校庭で学びあった心の友であります。年一回の総会で、声高らかに校歌と応援歌を歌い、「生きている実感」と「多感な時代の自分の姿」を想い出し、再認識することは、生きる勇氣と希望を与えることであります。総会に出席し、南高卒業生であることを再認識しようではありませんか！必ず、新しい自分を発見し、新しい道が拓けてくると思ひます。結束力こそ、南高生の最大の財産なり！

18年度 総会出席者一覧 (敬称略)

Table with 6 columns listing alumni names and their graduation years from various schools (e.g., 二中2卒, 南高2卒, etc.).



無償の行為
山形県立山形南高等学校
同窓会会長 千歳 貞治郎

1933年(昭和8年)7月25日に記録された最高気温40.8度という山形市の持つ70年の歴史が消えた。新チャンピオンは熊谷市と

多治見市の40.9度である。たかが気温とはいえ日本一の名称が滅びたことにいささか淋しい感慨が残るのは私だけではあるまい。

本日山南同窓会東京支部の総会にあたり首都圏同窓各位の御健祥をお慶び申し上げます。

大志を抱いて郷関を出られた諸兄は先ず健康でなければなりません。時に望郷の念を募らせ時には自己を省みることもあるでしょうが、諸兄が培った母校は文武両道を名実ともに堅持し、実行しているのは県内では南高だと高い評価を頂いております。部活と教育が両立して、諸兄の遺伝子は確実に享けつがれております。

さて、東京支部創設以来の活動は決して順調とは申せませんが、役員のご努力には敬服しております。同窓会とは無償の活動です。自己負担の多い役職です。これは誰にでも出来ると思いがちですが、言うは易く行うは難いものです。いま東京支部は創業の困難に直面しております。一段と会員に訴えて、同窓2万の先頭に立つ稜々たる南高精神で見事に発展させて頂けるものと集雲の彼方より念じ、ご期待申し上げる次第であります。

母校の校長先生のごあいさつ

山形県立山形南高等学校

校長 高橋 健二



昭和8年7月5日山形県で記録した国内最高気温40.8℃が74年ぶりに更新されるなど、記録的な猛暑に見舞われた夏でありましたが、山南東京同窓会の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在山形南高は、建学以来の校是である「文武両道」「師弟同行」「質実剛健」のもと、先輩諸氏の築いた南高の伝統を継承し、現在、新しい時代を切り拓くリーダーの育成、難関大学・学部の突破、スポーツ・文化部活動全国一、知・徳・体バランスのとれた人間の育成を目指して、教職員(69名)・生徒(736名)一丸となってがんばっております。

山南東京同窓会の皆様からは、ふるさと山形を想う気持ち、高校生活を思い浮かべわが母校に思いを馳せる気持ち、母校の一層の発展を願う気持ちが切実に伝わってきております。

これにしっかり応え、県下にさらには全国に誇れる南高を築き上げていく所存でありますので、皆様より今後ともご指導ご支援をお願い申し上げます。

是非山形にお越しいただき南高にお寄りください。心よりお待ち申し上げます。

(高橋校長は南17回卒です。在学中は陸上部所属でした)

西全景



「卒業してから50年」

江口 光夫 (南6卒)

昭和31年(1956年)神武景気の始まり、家庭電気製品が生活の革命・発展を促した時期に卒業した第6回生は、それぞれの道に進み、当時の所得倍増論や日本列島改造論に刺激され、高度成長の担い手として、企業・職場で懸命に働いた時期が長くございました。山形では「六日会」を1976年頃から結成。関東地区では1982年「六南会」を結成し第1回の懇親会を開催。以来25年間、山形・関東合同での催し以外は、毎年懇親会を開催。継続は力なりで、同期生を定期的に集める企画を続けた事が、飲むたびに交流の輪を広げ、友が友を呼び、次第に同期の輪が大きくなっていったものと思う。

同期の絆は意外と深く、不思議な展開をするもので、今年古希の年に、50年ぶりに連絡が取れて、初めてご出席された人が出たこと、山形から小山市に転居で新会員としてご出席していただけた事は世話役として喜ばしい限りである。新たな参加者を加えて、元気な限り六南会を続けてゆきたいものである。

近頃、盛り上りを見せてきた山形県勢の活躍！
その秘密は組織の要のこの人が握ってますー

山形県スポーツ界の近況

(財)山形県体育協会長

金森 義弘



国内スポーツ界最大のイベント、夏の甲子園大会も終わり、本県代表の日大山形は春の選抜の王者常葉菊川高(静岡)と初戦で

力負け、わが山形南は県大会2回戦で日大山形に完敗、しかし今年県内の高校野球界では全国一を目指すとの意気込みもあり、レベルをあげて必ず実現してほしいものである。さて2008年8月開幕を迎える北京オリンピックも残すところ1年を切り、前回のアテネでは本県関係者7名が出場、北京への有望選手を紹介すると女子走り幅跳池田久美子、日本選手権3連覇メダル有望、カヌー竹屋美枝子、松田淳司、フェンシング原田めぐみ、バスケ女子大神雄子、バレー女子高橋みゆきなどのほか、10名ほど候補選手がおり多士済々、これらも平成4年のべにばな国体の完全実施に起因しているのである。(南9卒)

(県勢は確実に名を挙げています。世界選手権で負けはしたけど才器をみせた池田久美子、久ぶりアジア王者になった女子バレーの高橋みゆきの活躍は、見事なものです。)

早や半世紀、光陰矢の如し！

清水 紀久 (南9卒)

南高創立1桁の最後の9回卒、卒業後早48年、今年全員67歳ほぼ現役引退の年齢ながら、年2回の一泊ゴルフ、忘年会その他年数回の飲み会と元気に活動しています。

特に平成15年から3泊4日のワールドシリーズゴルフコンペを5年連続ゲームで行っています。山形からの参加は勿論、最近では家族の参加まであり、ゲームでなじみの店もできて楽しい時を過ごしています。あと何回出来るかはわかりませんが、出来る限り続けるつもりです。

私は今年、妻と二人の息子夫婦、孫達と全員引き連れて参加し、全員楽しい時を過ごしました、出来ることなら恒例の行事にしたいと思っています。愉しくて元気の出る会、毎年1月に行っていますので、一人でも多くの参加を募っています。

海外体験による文明論の記事を募集しています。歴史は国と時代の様式を記録し、比較文明学は時代を取り払って文明の差異と共通性を解明する。西欧の文化人類学では現代文明は7ヶに分けるのが通説。西欧、イスラム、ヒンズー、中国、中南米、ロシアと共にもう一つの文明圏と認められる国、それは日本文明である。日本は西欧でもなく、中国でもない、れっきとした独立文明国。だから独自の考えと習性を持つのは当然。もっと誇りと自信を持たねば。それにしても、今どきの大人の自信のなさや消極性はどうか。——合せて考えてみるに、山形南高は独自の文化を持つ独特の高校である。もっと自信を持とう、そして原稿をどんどん出してください。

★第一線でご活躍中の著名な映画監督に登場してもらいました。★



“同窓の旗の下に”

映画監督 村川 透 (南5卒)

かつて映画を志したこともある大作家、五木寛之氏のベストセラー「林住期」。古代インドでは人生を4つの時期に分けて考えたという。「学生期」「家住期」、そして「林住期」と「遊行期」である。「林住期」とは、社会人としての務めを終えたあと、全ての人が迎える最も輝かしい「第3の人生」のことである。山形南校に、3年という将に青春時代、心身を鍛え、学習し、体験し、「家住期」に就職、結婚、家庭を持つ。そして「林住期」、真に人生のクライマックスを迎え、同窓の印にこそ我々の期する最高の幸せを感じずる時である。

会社を離れて

平尾 眞次 (南10卒)

勤務していた新聞社を去る6月末に退職して、フリーの身になりました。本社一子会社と通算43年余りの「会社人間」生活でした。そのうち駆け出しの地方支局5年の後は、部署は異動しても東京のど真ん中にある本社勤務で、よその土地への転勤というのは一度もありませんでした。

東京勤務の利便、恩恵は何かと享受させてもらいましたが、といて東京をよく知っているわけでもなし、逆に、さまざまな土地の風土や暮らしなどに触れることはほとんどないままに、狭い世界で過ごしてしまいました。自ら手を挙げて望んでも、ちっとは東京を離れてみればよかったかなと、今にして思っています。

これから改めて未知の所を訪ねても、旅行者としてかすめるのが精々でしょうが、そうした機会を出来るだけ持ちたいものだと思っています。

自然豊かな牛久

奥山 俊一 (南28卒)

仕事の関係でいろんな所に暮らしましたが、今は茨城県牛久市に落ち着きました。そこで牛久の良さを少しだけ紹介したいと思います。

家の近くに、牛久自然観察の森があり、そこはまさに野草・野鳥・昆虫の宝庫です。庭先の木の実が熟す頃、ジョウビタキ・ルリビタキ・シジウカラ・ヤマガラ等実をついばみにやってきますので、家の中からそおと観察。毎朝、4時半に起きて、(いえ、さくらに起こされて)愛犬さくら(黒のラブラドル・リトリーバー)と散歩に出かけますが、運のいい日には、近くの池で「飛ぶ宝石」とまで形容されるカワセミが見られます。また藪の中から突然雉が飛び出したり、日々いろんなサプライズを味わえます。自然の中を散歩しながら中世の坂東武者(平将門)の夢の跡をさまよ、林や野原ではバードウォッチングして楽しんでいるこの頃です。

“出逢いは最高の人生ですネ”

栗田 隆司 (南42卒)

私が常任幹事を務めさせて頂く経緯は非常に偶然でした。以前、半導体を扱う商社に勤めていた際に仕事のつながりでお会いしたのが、安孫子雅敏先輩でした。始めは何も知らずに、何度か打ち合わせなどを行っていたのですが、ふとした時に山形出身かつ南高の先輩であることがわかりました。それがわかった瞬間に安孫子先輩が非常に身近に感じ、仕事自体も信頼感を持って進めることができたと感じております。その後、常任幹事を推薦頂き、本日に至っております。これからもこの広い東京でこのような偶然の人の出会いが重なり、東京同窓会が発展していきますよう、努めていきたいと思っております。よろしくごお願い致します。



80才で傘寿の会をやるう！

森 寛爾 (南4卒)

1979年 我々は壮年期 現役真っ盛りの44歳(or43歳)南高卒業後25年目に銀座での感激の対面、懐かしさに感涙したあの時から延々28年間、72歳の好々爺になるまで浅黄優喜君を中心とした「山南東京二九会」が営々と続いております。新年会は一度も欠かした事がない、時折時節に合わせて花見の会・納涼会・暑気払い・ハイキングの会・旅行の会・忘年会と和気あいあいと賑やかにやっている。又ベ이스ターズ加藤武治選手に横浜横浜スタジアムで直接面談し大いに激励した事もありました。

ただ如何ともし難い年波、年々行事参加仲間が寂しくなりつつある。既に逝去された友(合掌)病と敢然と闘っている友(負けるな)、「山南東京二九会」の素晴らしい仲間が、いつまでもいつまでも元気で健康で恒例行事が継続出来ることを願わずにいられません。

我々の当面の大きな目標は、8年後80歳の「傘寿の会」を全員で華々しく盛大に祝宴が出来るようにすること。これは指きり約束ですぞ！

イン東京

村山学生寮の人間洗濯機

奥山 専逸 (南6卒)

東京に出てから、小石川の村山寮にお世話になりました。6畳の室に2人ずつの相部屋で10部屋余り。寮母さんも同郷出身で朝・夕の食事も郷土の味つけそのままでした。学校から寮に帰ればすぐズーズーに戻り、東京のど真中に居ながら山形での生活そのものの寮生活でホームシックを感じさせない毎日でした。当時は洗濯機がなく、みんなが風呂に入った後、洗剤と、5～6人分の洗濯モノを風呂にプチ込み、そこに2～3人の新人寮生が飛び込みます。そこから、人間洗濯機の始まり。約20～30分間で洗濯ものを、ゆすり続け、泡がたつと多少汚れがおちたような気がしたものです。まるでアフリカ奥地の原始人のようなやり方ですが、シャワーを浴びると身体の方がきれいになっていました。家内にも話していない寮生活の思い出をご紹介します。

ありきたりの朝

佐久間 啓輔 (南8卒)

今朝はいつもの朝と違っていた。庭さきの小鳥の餌台の周りに、いつもいる雀がいない。餌台に餌を蒔いて、1分もしないうちに、1羽の鳩がバタバタと羽音をたてて飛んできて餌を啄み、すぐに飛び去った。それから4、5分もすると、8羽の雀が餌台にやってきて、喧嘩もせずに餌を啄み始めた。いつもなら、餌台に7、8羽ものれば、1、2羽が追い出されて、周りの紫陽花や梶の枝の上で、台の空くのを伺っているのだが、今朝は違っていた。食べ終えた雀が飛び去ると、新たな雀が餌台に飛んできては、飛び去る。40分もすると、鳩がバタバタと飛んできた。やっといつもの朝に戻ったようだ。

鳩が餌台にのると、雀の載る場所がなくなってしまふ。まだ食べ足りない雀は、餌台の端に掴まりながら首を伸ばして餌を啄んだり、地面に落ちた餌を拾う。

やがて、鳩が去り、雀の鳴き声も聴こえなくなる。さて、1日が始まる。

こんな歳になると…

松田 公 (南4卒)

こんな歳になるとよく聞くことあるよねー。

そうさ「ピンピンコロリ」と言うやつよ。だが、そんなに簡単に死にたいのかね……？

冗談じゃないぜ。そう思いどうりになるのは5%の確立にも満たない。みんな否応無しにお世話になるんだよ。だから大いにお世話になろうじゃないかと言ったねー。

諸氏よ、あと8年で80才になると言ったのは我々の面々だ。だから先がみえてきているんだよ。と思っ、早くやりたい事を沢山やればいい。80才になって何が出来るかと思ってもそう、何が出来るのかね……？

だから今のうちに、今を生きるため、何でもやってみることだ。そうしたら「〇〇〇コロリ」もみえてくるってもんじゃないか。

あの日、あの時

加藤 芳男 (南6卒)

還暦(定年)から10年過ぎて、古希を迎えました。振込みが無くなり、年金生活となりました。お金が無くとも、時間はたっぷり存りますが、晴耕雨読も耕す土地もありません。

それでも、ふるさとがあって同期会があって、仲間のところに参加することで心が豊かになります。素の自分に戻り、辛子色になった月日の記憶が蘇ります。

古里の風景は百万語の言葉より勝ります。

お酒が飲めるうちに同期会(同窓会)に参加できるのは、あと何回かなあ……と想うとき、同郷の仲間が居るところに気楽に参加しようではありませんか。

ある1カ月の暮らし

埼玉県所沢在住 佐藤 善政 (南9卒)

私は南校卒業後、公務員となりその後46年間のサラリーマン生活を送り、平成17年7月より年金生活に入りました。そこで現在の私の1カ月の暮らし方を紹介します。

- ①週に5～6日は朝5時30分に起き、公園でラジオ体操をし、その後6キロ位あるくこと。
- ②月に4回パソコン教室へ、3回所沢高齢者大学の受講、1回そばうち教室、1～2回ゴルフへ、1回内科クリニックへ等を行っています。気力充実の毎日です。

校友の出版本の紹介



「不動産業ほど面白い仕事はない」

著者 鈴木 隆 (南9卒)

筆者は起業して30年に及ぶ体験と研鑽の中から、仕事と経営と文明について熱き思いを語る。不動産業の動向と業者のあり方、人生観、世界周遊の旅行記。日中経済、交流で活躍する邱永漢に密着した研究、成果など。

筆名は大江隆司 定価1,260円 19年5月刊
発行は週間住宅新聞社 TEL. 03-3209-7721

空はコバルト

堤 聖和 (南9卒)

私の兄弟には二人の兄がいて長男は学者肌(理学博士)で次男は柔道の猛者であった。私はといえばこの兄達にはいずれの面でも劣り、並の器と自覚している。私も柔道を中学、高校とやったが強くはなれなかった。しかしこの練習を通じて得た精神面、体力面は今に多少なりとも活かされているようである。今は能力がなくともコツコツと鍛錬すれば何がしかの成果が得られることを信じて「ゴルフ」に励んでいる次第である。高校同期のゴルフ会(年2、3回開催)ではベストグロスをめざし参加している。

佐藤 孝明 (南33卒)

建築家 丹下健三先生の事務所から独立し、8年前に赤坂に共同出資して設計事務所&コンサルタント「ファインコラボレート研究所」をやっています。最近、建築業界は大混乱しています。6月20日姉齒事件を機に改正された建築基準法の確認申請の厳格化により、記載、要求される資料が膨大に増えたばかりか、現場段階で変更が出たら、最初からの出直しになりました。当然時間とコストを要します。そんな中、先日官庁物件で第1号の計画通知を通しました。お仕事ありましたらインターネットで検索してください。



4回卒も元気で頑張っています。

鏡 清蔵 (南4卒)

恒例の“GOLF鬼怒川高原ツアー”もすでに10数回を継続しました。継続は力なり!72歳を迎えた南高健児たくましい限りです。山形、東京圏、東北圏、から中間距離の地、鬼怒川高原に年1回の元気な姿で参加するのをみんな楽しみにしているのです。季節の料理、果物、地酒、を持参で、ホットな情報、自慢の話題を持ち寄って半世紀前の共通の話題から20年、30年先までの話を肴にして一夜を共に尽きぬ話題で時間をわすれ話し合える友。同期生-3年間の出会いが…こんなにスバラシイものに!人生の不思議と喜びを感じます。明日は早起きで、2日目の決勝ラウンドが待っています。

“元気で楽しい先をめざしたせいかつを”

女性群も ガンバッテます!!

(名物婦長さんの登場)

私も頑張っています。

近藤 和子 (南5卒)

42年間慶応義塾大学病院に勤め、平成14年に定年退職して、ことし古希を迎えた現在も、現役バリバリのナースを続けています。

現在の職場は定年制がなく、健康で仕事を続けられる体力と気力がある限り仕事ができる恵まれた?職場だからです。

大学病院で培った看護技術、知識を生かして、病気の患者に少しでも役に立ちたいとの気持ちから、仕事を続けています。幸い、私自身健康で、病気知らずの状態です。月に16~17日パートとして、気楽に働き、その他は毎月国内外の旅行でストレス解消をし、昨年も22回、今年も20回旅を続けています。30代の頃は専らヨーロッパに十数回旅をして、ここ近年は近くの海外か国内にしています。幸い、旅と一緒にしてくれる友達もたくさんいるからこそ続けられる幸せを感じています。これからも好奇心旺盛でいたいと願っています。

卒業して早や50有余年、近藤さんから原稿を出していただくには、次のようなやりとりがありました。他の人にも参考になると思いますので掲載します。

編集者へ

突然原稿依頼に驚いています。南高会に出席することもなく、会員の勤めも果たしていないのに、慶應で同じ職場の後輩から、“会は面白いから参加しましょうよ”と声かけがありました。何せ女性の少ない高校でしかも、顔も知らない人達との交流に遠慮してしまいました。しかし今回送られて来た会報に卓球先輩の後藤宏美さんの寄稿を拝見し、なつかしさの余り、私の原稿を送らせていただきました。私が南高に入学してすぐにクラスの卓球大会の際後藤さんから卓球部におさそいがあり席をおきました。しかし女性は私の1級下の子と2人だけで男性と共に河合先生から指導を受けました。芳賀先生が担任の時に将来の事を聞かれナースになりたいと話したところ女性も資格や手に職が必要と進められ、慶應に入り、42年のうち2年間だけスタッフとしてあとの40年間管理職(主任、婦長)の仕事をしました。その後初心に戻ってナースの仕事をしたいと思い、現在に至っています。

今後も何か興味のある企画でもありましたら参加してみたい希望も持っています。

今後共、南高の発展の為ご尽力下さいますようお願い申し上げます。
8/12 近藤 和子

この方からもご返事がありました

編集の方へ

秋田 美代子 (南5卒)

会報とお手紙拝見いたしました。私も元気でおります。

記事原稿との事ですが、私事 身内に不幸があり恐縮ですが今回はとり急ぎお断り致しますのでご了承くださいませ。

各学年卒の活動状況

学年の活動状況

江口 文雄 (二高2回卒)

19年組の東京同期会は春秋2回の集りの中でお互いの消息、近況などを語り合い交遊を深めてきましたが、今秋は本部の山形、北海道勢を含め全体の会合とし、さらに東京箱根の二泊三日の“喜寿まで待てない旅行会”も併せ実施しようとの計画が決まり具体化が進められている。(11月初旬予定)

ミミの会

渡辺 時彦 (南8卒)

8回卒〔名称ミミの会〕は、昭和54年2月当時発起人東海林宏君の献身的な働きかけにより発足した。彼が65才で不帰の人となってからも毎年2月に1泊して交流。彼の遺志を引き継いで、今年第29回は2月に伊豆多賀温泉1泊で行いました。来年は第30回を2月に行います。同期の参加をお待ちしています。

また今年5月に麒麟麦酒横浜工場見学を行い、出来たてのビールを試飲し会食で楽しいひと時を語りました。

南天会の勝手連

佐藤 昌平 (南10卒)

今年から都内の某レストランで、毎月第2月曜に昼食会を始めました。その常連の数名が世話人となり、南天会勝手に集まる会(勝手連)を立ち上げ四季を通して集まる年間の活動計画を立て、現在下記のとおり着々と実施しております。

4月 花見兼ゴルフ会(朝霞パブリック) 12名参加

5月 警視庁見学会 松本楼で会食 22名参加(うち夫婦5組)

7月 防衛省見学会 グランドヒル市谷で会食 26名参加(うち夫婦6組)

これからも

9月に御岳山ハイキング、12月に忘年会を予定しています。

とにかく集まって山形弁でわいわいダババすることを最大の目的にして来年以降も続けていく予定です。

“集って、山形弁で、わいわいダババ。これが同期会、同窓会の原点ですね。これを忘れると形式的になり人が集らなくなります”

東京同窓会役員(平成19年9月現在)

会 長	齊藤 常男(南5卒)											
副会長	椿 尋昭(南1卒)	土屋 裕司(南2卒)	吉野 禮三(南3卒)	浅黄 優喜(南4卒)	江口 光夫(南6卒)							
常任幹事	山田 勲(南8卒)	小原征四朗(南9卒)	鈴木 隆(南9卒)	清野 正昭(南10卒)	安孫子雅敏(南29卒)	高橋 健一(南33卒)	西宮 忍(南33卒)	渡辺 弘樹(南35卒)	山田 健嗣(南36卒)	栗田 隆司(南42卒)		
監 事	加藤 芳男(南6卒)	高橋 亨(南6卒)	会計幹事	加藤 忠利(二高2卒)								
顧問	会田 雄亮(二高2卒)	丹野 益男(二高2卒)	森谷 亨(南1卒)									
事務局	渡邊 修(南23卒)	吉田 正幸(南36卒)	齊藤 健二(南40卒)	会報編集	鈴木 隆(南9卒)							

東京同窓会 学年幹事

二中1卒	庄司 政美	南高4卒	鏡 清蔵	南高11卒	大村 勝行	南高19卒	折原 光一	南高28卒	相馬 和弘
二中2卒	柏倉 昭夫	南高4卒	作山登喜子	南高11卒	富田 隆造	南高20卒	門脇 登	南高29卒	高橋 英樹
二中4卒	鈴木 章夫	南高5卒	長岡 正哲	南高12卒	市村 好廣	南高20卒	川原 建次	南高29卒	山口 輝明
二中5卒	駒林 誠	南高5卒	三浦 富男	南高12卒	毛利 昭	南高21卒	石澤 敏弘	南高30卒	石堂 正美
二高2卒	江口 文雄	南高6卒	中村 武	南高13卒	齊藤 恒光	南高22卒	小笠原生真	南高31卒	西塚 裕行
二高2卒	沼田 照	南高6卒	渡辺 滋	南高13卒	佐竹 純孝	南高23卒	鈴木 博之	南高33卒	佐藤 孝明
		南高7卒	小松 三郎	南高14卒	佐藤 守彦	南高24卒	清野 明	南高35卒	西塚 勉
		南高7卒	早坂 仁作	南高14卒	豊嶋 豊雄	南高25卒	岩間 浩	南高36卒	熊坂 昌之
南高1卒	杉山 彬	南高8卒	山下 史郎	南高15卒	小松栄三郎	南高25卒	鈴木 淳一	南高37卒	尾関 功
南高1卒	山口 正輝	南高8卒	渡辺 時彦	南高16卒	佐藤 和彦	南高26卒	開沼 博	南高37卒	長岡 栄二
南高2卒	豊田 恒雄	南高9卒	石垣 丘志	南高17卒	岸 秀一	南高26卒	後藤 純一	南高38卒	梶沼 和幸
南高2卒	廣瀬 貞夫	南高9卒	高橋 英也	南高17卒	横山 澄男	南高27卒	武田 謙吾		
南高3卒	藤井千代子	南高10卒	佐藤 昌平	南高17卒	横山 洋介	南高28卒	会田 吉博		
南高3卒	舟橋 一夫	南高10卒	原田 陣悦	南高18卒	岸 泰雄	南高28卒	奥山 俊一		

母校だより

スポーツ担当事務局
教諭 田中 正浩 (南41卒)

昨年度、セリーグ最優秀中継ぎ賞を受賞した横浜ベイスターズに加藤武治投手より移動式ダッグアウトを寄贈していただきました。この設備、普段の野球部の活動はもとより、全校生徒による体育祭などでも大変重宝しております。その野球部は、今年は山形県代表として甲子園に出場した日大山形に県大会2回戦で惜しくも敗れてしまったものの、多くの生徒の応援を呼び、大変充実した試合内容でした。

その他にも新たな部・愛好会が結成され、各方面で活躍しております。詳しくは南高ブログ (<http://yamanan.boxerblog.com/nankoblog/>) をご覧ください。

文化部の生徒たち 同窓会事務局長 鈴木 秀明

8月に全国高等学校総合文化祭が島根県で開催され、本校からも新聞部、書道部、囲碁部、写真部が県代表として参加しました。視聴覚委員会(放送)も全国大会に参加しました。吹奏楽部も全国出場を目指して県代表として東北大会に参加します。山形南高校というと運動部が有名ですが、文化部もこのように全国レベルで活躍しております。

運動を好む生徒だけでなく、文化的な活躍を好む生徒も山形南高校で学んでいます。この多様性がナンコーの特徴かもしれません。

平成18年度 収支決算書(案)

収入				
項目	予算額	決算額	増減	摘要
総会会費	1,145,000	657,580	487,420	男87人×8,000円 女2人×5,000円
年会会費	800,000	794,900	5,100	
寄付金	40,000	60,000	△20,000	380人×2,000円
繰越金	824,158	824,158	0	総会会費3名、会長激励金
繰入金	0	20	△20	
広告協賛	110,000	120,000	△10,000	12頁×10,000円
計	2,919,158	2,456,658	462,500	

支出				
項目	予算額	決算額	増減	摘要
会場使用料	20,000	25,500	△5,500	総会会場、来賓控室
懇親会経費	1,080,000	597,240	482,760	飲食費、荷物送料、写真代他
会議費	150,000	93,315	56,685	役員会、学年幹事会他
総会案内経費	350,000	280,844	69,156	
名札印刷経費	10,000	7,841	2,159	
プログラム印刷経費	150,000	157,500	△7,500	
振込用紙印刷等経費	0	0	0	
事務費	100,000	126,658	△26,658	振込手数料他
東京同窓会会報	100,000	100,000	0	
予備費	959,158	45,000	914,158	祝金等
計	2,919,158	1,433,898	1,485,260	

収入総額-支出総額=差引
2,456,658円-1,433,898円=1,022,760円

編集後記

苦労して解ったことがある。みんな筆不精であること、そして頼めばいい文章を書いてくれるということ。やっととりついた4号目とは言え、やる気も一歩まちがえは独善につながる。そろそろ選手交代してもいいのでは…誰か会報編集をやる人いませんか? 次回は私達の地盤である第二の故郷、東京を取り上げます。タイトル“私の東京”……
東京のこんな所がいい。300字、写真一葉(風景)
編集者 鈴木隆 南9卒 TEL. 047-424-7200

一お知らせ 一 会報の記事はインターネットのホームページに記載されます。支障のある方は編集者まで御一報ください。



南高祭をアピールしようと登場する山形南高生 (山形新聞より)

花笠まつりパレード8月5~7日の第3日、9番エントリーに出場した山形南高祭のメンバー達

山形だより 同窓会事務局 柳谷

残念? 山形が日本一のひとつ、最高気温が今年、多治見市と熊谷市に取って代わられたということ。インパクトの少ない山形にとってちょっと残念。その熱い最中、花笠踊りが8月5~7日に行われ、129団体のうち南高生も「南高祭」PRの為昨年より出場。別の団体に今年初めて参加してみると、外で見るのとは大違いで、沿道で小さい子供さんが見よう見まねで踊っているのをみると、もっと一般参加できる体制であつたら良いと思いました。

そして、今年も「大いも煮会」が9月4日(日)に開催された。こちらは県外からも大勢の人が集まり、大好評大盛況で、まさしく日本一のイベント。東京支部の皆様もぜひ参加ください。日本縦走の台風も東根・村山の一部で被害をもたらしたものの、山形のりんご、ラ・フランスは大丈夫の模様。ほっとしながら、秋の実りを待っています。

(柳谷様、いつも良い資料を送ってください、ありがとうございます。)

慶弔のお知らせ (山形のみまで記載)

物故者(敬称略) ご冥福をお祈り申し上げます。

旧職員

- 17年 1/16 服部 倉太 先生(英) 19年 2/11 山口孝次郎先生(保)
- 3/15 細田 久夫 先生(英) 3/24 山田 精徳 先生(物)
- 10/7 猪口 三郎 先生(事) 7/19 結城 朋彦 先生(数)
- 18年 11/17 長岡 吉彦 先生(国)

同窓会員

- 16年 2/4 山崎 喜蔵(南8回) 19年 1/5 佐藤 英男(南5回)
- 5/8 芦名 茂(南17回) 1/13 柴田 誠(二高2回)
- 6/21 佐藤 昭(南9回) 1/17 金子 美則(南21回)
- 7/ 眞木 貞(南2回) 1/18 高橋 美好(南2回)
- 8/ 鈴木 忠二(南1回) 2/5 渡辺 泰助(南18回)
- 9/ 片桐 宏信(南35回) 2/10 辻 恵子(南7回)
- 11/ 笠巻 旭(南17回) 2/17 玉造 忠昭(南7回)
- 17年 3/9 松浦 利雄(二中4回) 2/23 岡崎彌平治(二中1回)
- 3/30 高橋 和夫(二中1回) 4/ 佐藤 義夫(二中3回)
- 8/7 熊谷 隆夫(南7回) 5/25 寺田 喜逸(南2回)
- 10/16 深瀬 吉邦(南2回) 6/1 吉田 伸一(南11回)
- 18年 5/29 伊藤 芳都(南6回) 6/6 保科 辰郎(二高2回)
- 6/21 川田 浩(南2回) 6/26 斎藤 弘一(南7回)
- 7/17 沖 憲一(南7回) 7/10 稲村 祐希(南56回)
- 9/18 斎藤 崇(二高2回) 7/17 五十嵐 武雄(南7回)
- 9/23 鈴木清二郎(南9回) 7/22 橋詰 久吾(二中4回)
- 9/27 富永 武(南2回) 7/26 鹿野 俊幸(南12回)
- 10/15 鈴木 計(南34回) 7/28 奥山 丈夫(南2回)
- 10/29 服部 恒男(南14回) 8/7 佐野 邦男(南8回)
- 11/11 佐々木康裕(在2年) 8/15 鈴木 伸夫(南11回)
- 11/30 結城 徹(南9回) 8/20 丹 克之(南31回)
- 12/4 奥出 悠輝(南54回) 8/22 辰己 繁夫(南1回)

特別企画 “熱き男”

愛校心は学校と校友の宝です。編集者推薦により愛校心溢れる覇気ある男に登場してもらいます。初回は同窓会の大黒柱、この人が適任かと思ます。



「有名校に教えらる」

千歳 貞治郎

昭和22年、戦後の混乱は明日への希望を持たない荒廃した様相でした。学校では教科書を

初めあらゆるものが不足して到底「日々清新」とは言えない惨状でした。この時代の二中学生は山中に負けるなを合言葉としてもこのままでは何の展望も開けないことを痛感しておりました。先ず必要だったのは二中学生のあるべき姿と方向を定めることでした。そして悩んだ末に素晴らしい決断をしたのです。それは他県の有名校はいかなる教育を受けているかを探る視察旅行でした。今と違ってすべての物資が欠乏している中です。教師と生徒代表十名は米と味噌を背負って不便な汽車に乗り込みました。行き先は仙台一中、同二中、旧東京高師附属駒場高校、基督教大学附属高校、長野県深志高校である。彼等の勉学方法、生徒会、部活、教師と生徒のあり方、伝統的な学校運営等がことごとく見聞され母校に持ち帰ったときのショックは今の皆さんには及びもつかない大騒動でありました。学校全体が教師と生徒が連日連夜検討して二中教育はかくあるべしと結論され直ちに実行されました。先生も生徒も一変しました。見事な変身でした。今日の南高の基礎はこうして築かれたのである。東大、一橋、東北大の入試には連戦連勝し二中恐るべしと世間は驚き二中の名声は一気に上がったのでした。野球、バレーを初めスポーツも群を抜き県下の実力校となった文武両道にはこの視察した有名校の教訓が移植されているのです。皆さんこの快挙をご存知でしたか。伝統のない学校が県下に覇を、校旗を挙げるには血肉を裂くような努力があったのです。こんな気概が今の南高生にもあることを待望したいと思います。

＝ガンバレ、後輩！＝

先日ある会で、東京大学工学部産業機械工学科四年在学海藤広峻君に会いました。「大学院に進んで、将来は日本企業に技術面で寄与できるような学者になりたい」と静かに力強く言っていました。



写真提供 吉野 禮三さん

☆☆☆☆☆☆ 広報からのお知らせ ☆☆☆☆☆☆

個性ある会報をめざして

副会長 吉野 禮三 (南3卒)
広報担当



東京同窓会会報は第4号を皆様にお届けすることが出来ました。創刊時の懸念も一掃されました。編集者も大いに頑張っています。

在学中の青春の思い出も、時代の移ろいの中で、人それぞれ珠玉のような財産を持っておられ、会報に披露して頂くことで、長く歴史に残ることでしょう。会報は同窓生の貴重な資産です。

母校を巣立ってから、社会人として各地で、各界で活躍され、また、大きな社会的貢献を果たし、同窓会という古巣へ戻ってきた方々が大勢おられます。2,500名の会員の皆様が、それぞれ自分なりの生き方を貫き、年齢を問わず、自分史を持っておられるはず。その一齣なりとも会報に載せてみませんか。他に例を見ない個性的な会報を、作りませんか。皆様の寄稿を心から歓迎します。

親睦と交流－愛好会の場



東京同窓会 ゴルフ同好会 平成19年9月14日 参加21名
写真提供 小原 征四朗さん